営農情報　第４号

令和５年ＪＡ冬期懇談会資料をご活用ください（参照ページは各項目に記載）。

令　和　５　年　６　月　１６　日
アルプス農協管内農業技術者協議会

○中干し後の適正な水管理で根の発達を促進しましょう！
○出穂前からのカメムシ対策で「斑点米」の発生防止を行いましょう！

１　生育概況

【コシヒカリ】
平年に比べて、茎数はやや少なく、草丈、葉色は平年並み、葉齢の展開は遅れています。

【てんたかく】
平年に比べて、草丈はやや短く、茎数はやや少なく、葉色、葉齢の展開は平年並となっています。

5/4 田植えの幼穂形成期は 6/26 頃と予測されます。

表　水稲の生育状況　（6/5調査　アルプス米標準田　コシヒカリ14か所、てんたかく３か所の平均値）

品種		草丈 (cm)	茎数 本/株	茎数 本/㎡	葉齢	群落葉色	幼穂形成期
コシヒカリ	R5	30.0	10.7	235.3	6.4	4.1	―
	R4	27.8	11.6	254.1	6.6	4.0	7/9
	平年※1	30.7	12.3	255.9	7.0	4.2	7/10
てんたかく	R5	28.7	16.6	335.7	8.1	4.6	(6/26頃)
	R4	27.5	24.6	489.2	8.6	4.5	6/24
	平年※2	31.0	16.7	357.3	8.1	4.5	6/26

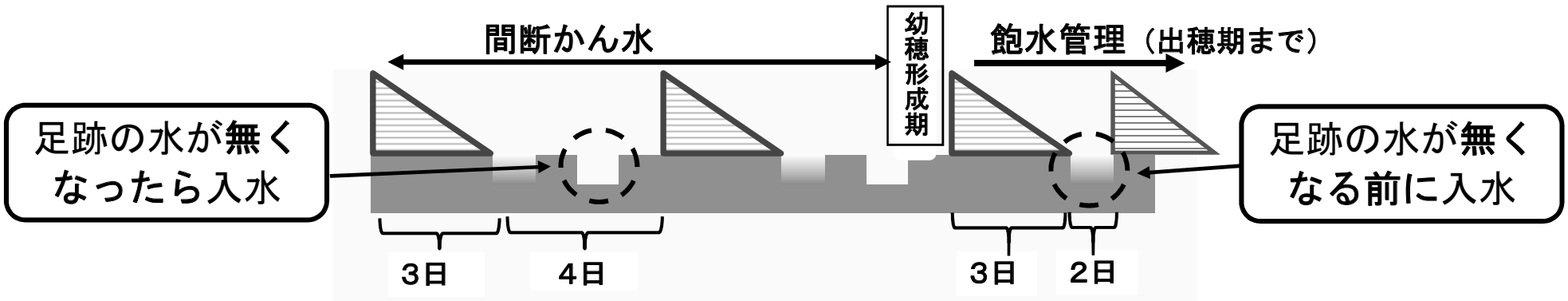
※1　アルプス米標準田15か所におけるH25～R4の平均値

※2　H24～R2まで県生育観測ほ２か所、R3は管内調査ほ4か所、R4は３か所の平均値

２　中干し後の水管理

参照ページ：p61、p71

YouTube
10　中干し後の水管理



○てんたかくは6/25頃まで、コシヒカリは7/10頃までに<u>間断かん水を行い、足跡の深さが3cm程度になるようにしっかりと地固め</u>しましょう。
○<u>幼穂形成期以降は飽水管理</u>とし、強い田干しは避けましょう。
※飽水管理は、「圃場に入水」→「自然減水」→「足跡の水が無くなる前に入水」を繰り返す水管理です。
※４日以上湛水状態が続く圃場では強制落水しましょう。
○<u>出穂後20日間は湛水管理</u>を行いましょう。

３　てんたかくの管理

参照ページ：p32～34、p69～70

YouTube
11 穂肥散布のポイントと注意点

（１）穂肥

○倒伏を防ぐため、<u>基肥一発肥料を施用した圃場については、原則、追加穂肥は行わないでください。</u>
○1回目穂肥は、<u>幼穂長1～2㎜を確認後</u>、直ちに施用しましょう。
○移植日や標高により施用時期が前後するので、幼穂長を確認し施用しましょう。
○幼穂形成期前に葉色が4.0を下回る場合は、各営農経済センターにご相談下さい。

【分施体系】　（10a当たり）

肥料名	１回目	２回目	
追肥３号	6/26頃※	1回目の7～10日後	
	10kg	砂壌土	砂壌土以外
		13kg	10~12kg

※5/4田植えの場合

幼穂 1～2 ㎜

（２）紋枯病対策（5/4田植え、幼穂形成期6/26頃、出穂期予想7/18頃の場合）

随時防除	出穂14日前頃　7/4頃　※基本防除（穂揃期、傾穂期）については次号でお知らせします。
粉剤	バリダシン粉剤 DL（収穫 14 日前まで）　【散布量】 3～4kg/10a
液剤（通常散布）	バリダシン液剤5　1,000 倍（収穫 14 日前まで）　【散布量】150L/10a
液剤（空中散布）	バリダシンエアー　8倍（収穫 14 日前まで）【散布量】0.8L/10a
対象病害虫	紋枯病

※田植え時期等によって生育差があるため、防除時期は生育状況を確認して決めましょう。

令和５年度農薬危害防止運動の実施　～　*守ろう 農薬ラベル 確かめよう　周囲の状況*　～
＜運動期間：４月１３日～９月１４日＞

４　斑点米カメムシ類の防除対策

参照ページ：p13～14、p44～45、p69～70

～早生の格下げの主要因は、カメムシによる斑点米！！～

草刈り運動期間：７月１日～10 日
＜一斉草刈り日：７月１日(土)～2 日(日)＞

○カメムシによる斑点米被害を防ぐためには、畦畔等の草刈りと基本防除が不可欠です。また、圃場内にノビエやホタルイが残っていると被害を助長するので、抜き取り等も行いましょう。

＜草刈りのポイント＞

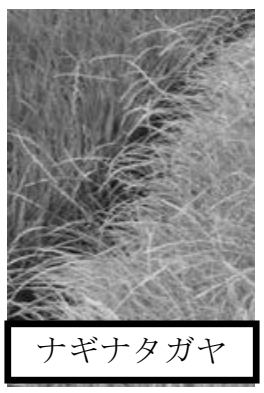
○畦畔や雑草地でのカメムシの増殖を抑えるため、**イネ科雑草の穂が出る前に草刈り**を行いましょう。
○水田内に発生した雑草(ノビエ、ホタルイ等)も、カメムシの餌になりますので、雑草の発生状況に応じて適切な除草対策を行いましょう。

＜草刈り時の留意点＞

○刈った草は、河川や海岸の環境保全の面から、用排水路には流さないようにしましょう。

○草刈り機によるケガをしないよう防護装備を着用し、近くを通過する人や車に小石等が飛散しないよう、周囲の状況を確認して行いましょう。

カメムシが好む草種


ナギナタガヤ

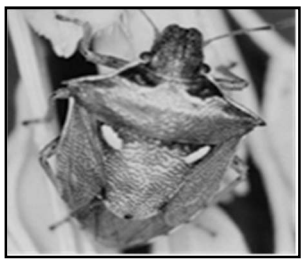
メヒシバ

クローバー

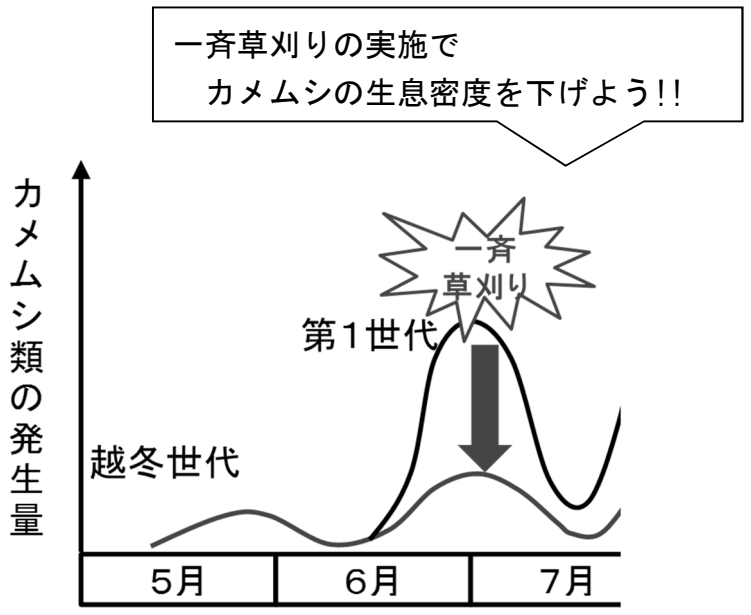
斑点米の原因となる主なカメムシ

アカヒゲホソミドリカスミカメ
（体長 5～6 ㎜）

アカスジカスミカメ
（体長 4.6～6 ㎜）


トゲシラホシカメムシ
（体長 4.5～7 ㎜）

クモヘリカメムシ
（体長 15～17 ㎜）



５　大麦あと圃場の適正管理

○大麦あと圃場を放置するとスズメノテッポウ等の雑草が繁茂し、カメムシの発生源になります。
○**緑肥作物等の作付けによりカメムシの繁殖を抑え、斑点米の発生を防止**しましょう。
○**何も作付けしない場合は、除草剤を散布するなど雑草等が繁茂しないように管理**しましょう。

【緑肥作物の作付け】

作物名	クロタラリア	ヘアリーベッチ
播種時期	６月上旬～８月上旬	９月下旬～10月中旬
播種量	５～６kg/10a	3～4kg/10a
すき込み時期	播種後50～70日後	水稲作付前の入水２週間前まで

～熱中症対策をして作業を行いましょう！～

＜熱中症予防のための５つのポイント＞

①気温の高い時間帯を外して作業しましょう　②こまめに休憩、水分・塩分補給をしましょう
③熱中症予防グッズを活用しましょう　④単独行動は避け、連絡を取り合いましょう
⑤熱中症警戒アラートを活用しましょう（環境省・気象庁 HP、富山防災 WEB で確認できます）

≪営農情報第５号の発行日は7月6日頃です≫